

京都大学人文科学研究所共同研究 最終報告書

1. 研究課題

前近代ユーラシア東方の戦争と外交

Warfare and Diplomacy in Pre-modern Eastern Eurasia

2. 研究代表者氏名

古松崇志

Furumatsu Takashi

3. 研究期間

2018年4月-2023年3月

4. 研究目的

ユーラシア東方は、草原・砂漠から成る乾燥地帯の中央ユーラシア東部と世界屈指の農耕地帯である中国本土とにまたがる地域である。そこは、古くから北の遊牧・狩猟民と南の農耕民という異なる生態環境に根ざした生業を持つ人びとが接触・交流する場であった。北方の遊牧・狩猟民集団は、前近代には最強だった騎馬軍事力を武器として、何度も強大な遊牧王朝を形成して南の中国王朝と対峙し、ときには中国本土を軍事制圧して支配下に入れることもあった。北方草原の遊牧民と中国本土の農耕民とあいだの対立・共存・支配被支配・融合といった多様な関係性は、ユーラシア東方の歴史の基調をなすといつてよい。本研究では、12世紀前半にマンチュリアより勃興してユーラシア東方に覇を唱えた金（女真）と宋朝との関係をおもに記した南宋時代の史書『三朝北盟会編』を取り上げる。文献の精読をつうじて、ユーラシア東方における遊牧王朝と中国王朝とのあいだの戦争と外交の実態を実証的に解明するとともに、金の華北征服という北方からの衝撃が、当時の中国の政治・社会・文化にいかなる影響を及ぼし、いかなる変容をもたらしたのかという、中国史上の重要な問題を考究することをも目指すものである。

In Eastern Eurasia, there have been constant exchanges and interactions between pastoral nomads of the eastern part of the Eurasian Steppe and settled agriculturalists of China proper. Northern pastoral nomads founded several powerful nomadic dynasties, based on a strong cavalry force, which was the most preeminent military technology in pre-modern times; they confronted the Chinese dynasties and even conquered China several times. Relations between pastoral nomads from the steppe and agrarian people of China were dynamic and diverse,

including military conflict, domination, coexistence and fusion. They can be regarded as the basic patterns of Eastern Eurasian history. This project will focus on the Southern Song history book "Sanchao beimeng huibian", which mainly deals with the diplomatic relations of the Song dynasty with the Jin dynasty of the Jurchen people during the first half of the 12th century, when the Jin dynasty established hegemony in the multi-state system of Eastern Eurasia. We will use the documents included in this book to analyze the characteristics of warfare and diplomacy between Nomadic dynasties and Chinese dynasties. In addition, we will examine the impact and influence of the Jin conquest of Northern China on the politics, society and culture of China, including Northern China under the Jin and Southern China under the Southern Song.

5. 研究成果の概要

研究テーマの「前近代ユーラシア東方の戦争と外交」について具体的に考察するための題材として、12世紀南宋時代に編纂され、金・宋間の交渉と戦争について記した史書である徐夢莘『三朝北盟会編』の会読を進めた。この書は長く鈔本で伝来し、従来の通行本である活字本・木版本は清末になってようやく出現したもので、版本として問題が少なくなかった。それゆえ、本研究班では日本・中国・台湾に所蔵される明・清代の各種鈔本を収集し、北京の中国国家図書館所蔵の明鈔本を底本にして、諸版本を対照してテキストの校勘作業をおこない、関連史料を調査し、現代日本語で訳読をおこなった。くわえて、『三朝北盟会編』という文献の成り立ちや史書としての特徴について研究を進めるとともに、遼・金・宋が角逐した一二世紀前半のユーラシア東方の王朝間関係について多くの新知見を得ることができた。

6. 共同研究会に関連した主な公表実績

第16回 TOKYO 漢籍 SEMINAR「金（女真）と宋：12世紀ユーラシア東方の民族・軍事・外交」（2021年3月15日）／古松崇志・伊藤一馬・井黒忍『金（女真）と宋』研文出版、2021年／人文研アカデミー2022 オンライン連続セミナー「草原と中華のあいだ——北方王朝（遼・金・元）の興起とユーラシア東方」（2022年9月30日、10月7日、10月14日、10月21日）

7. 研究成果公表計画および今後の展開等

これまでに『三朝北盟会編』を会読した成果をとりまとめ、校訂テキストを整理・作成する。そのうち一部については、校訂テキストと訳注を『東方學報 京都』誌上に公刊する予定である。